

弟子の掟②

シリーズ～弟子道～

2011/7/3

律法学者にまさる義

- 「あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」<5:20>
 - 「まさる」とは「豊か」という意味である
 - 「より厳密に守る」のではなく「より豊かに生かす」
 - 何もせずただ律法を守っているだけでは、律法学者の義にまさらない。律法の本質(愛)を実行してこそ律法学者の義にまさることができる！
 - 「何をしなかったか」ではなく「何をしたか」
-

マタイ福音書5章21～26節

「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、

マタイ福音書5章21～26節

その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。はっきり言うておく。最後の一クアドランスを返すまで、決してそこから出ることはできない。」

殺人に匹敵する罪

- 『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』は十戒の第6戒である
- 「兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける」
 - 誰かに腹を立てたら「殺人罪」に等しい！
- 「兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる」<「ばか」は“ラカ”「愚か者」は“モレ”>
 - イエス様の尺度では、すべての人は律法を破っており、裁かれるべき者である

供え物より仲直り

- 「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」
 - 神に供え物を献げるよりも、兄弟と仲直りすることが大切である！
 - 人間関係はすべてのことに優先する
 - どんなときでも、思い出したら即座に行動する
 - <相手が悪いと思っても>自分から謝る
-

裁判より和解

- 「あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。」
 - 「途中で早く」:最後の最後まで和解を求める
 - どちらが正しいかを争うより(裁判), 和解しなさい
 - 自分が正しいと思っても, 最悪の結果になることもある
 - 人間の判断には誤りがある
-

弟子の掟

- 言葉で傷つけることは、暴力で傷つけることに等しい
 - 神の基準は人間よりもはるかに高い
 - 自分の正しさを主張しない
 - 神の目から見れば、私たちは皆罪深い
 - 正義を争わない
 - 人間関係はすべてのことに優先する
 - 神に謝る前に、人に謝る
 - 人を愛することは神を愛するより難しい
-

仲直りと和解に全てをかけた

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律なくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」

<エフェソ2:14-16>
